

河南省プレスリリース (2018年8月22日付け)

出典 URL: <http://www.hnxmy.gov.cn/portal/news/viewContent.html?id=274688>

(以下、仮訳)

中国の3ヶ所で発生したアフリカ豚コレラについての専門家の見解：人の健康に脅威はない

中国の3ヶ所で発生したアフリカ豚コレラについて

専門家：人の健康に脅威はないが、豚に感染しないように厳重に管理する必要がある。

記者 (Li Liyun) :

「8月3日から15日にかけて中国農業農村部の情報室に発表された情報によると、遼寧省瀋陽市、河南省鄭州、江蘇省連雲港の3ヶ所のアフリカ豚コレラ流行が確認された。「アフリカ豚コレラ」は、ここしばらくの間、熱い言葉となっています。

3ヶ所の発生には何らかの相関関係がありますか？ 2例目、3例目（河南省、江蘇省）は、8月3日に遼寧省瀋陽市で最初に発生が確認されたアフリカ豚コレラに関連していますか？ アフリカ豚コレラの発生の原因及び流行の原因はどこですか？なぜ、現在アフリカ豚コレラの流行が頻発しているのですか？流行は適切に管理されていますか？人々に感染する可能性はありますか？ 予防や治療方法は？ アフリカの豚コレラの流行に対応して、農家は何に注意を払うべきですか？ アフリカ豚コレラの発生後、市場の豚肉は安全に購入できますか？」

日報科学技術の記者は、8月21日、中国農業科学院ハルビン獣医学研究所豚感染症研究所長兼豚重症疾患イノベーションチームの主任研究員と、中国動物衛生・流行病学センターと専門家の元を訪れ取材した。

人間の健康を脅かすことはなく、綿密な疫学調査がなされている

専門家の分析によると、「3ヶ所の発生が独立していることははっきりせず、直接的または間接的な関連があるかもしれないが、正確な疫学的証拠は見つかっていない。」

「アフリカ豚コレラの中国への侵入経路と3ヶ所の発生との関係については、農業農村部が農業専門家を組織し、トレーサビリティ検証作業を実施している」中国動物衛生・流行病学センターの専門家は述べた。

アフリカ豚コレラは、アフリカ豚コレラウイルス感染によって引き起こされる急性、熱性、および強い伝染力を持つ疾患である。国際獣疫事務局 (OIE) は、当疾病を報告義務疾病として列挙しており、中国においては、一種家畜衛生疾病として分類されている。アフリカ豚コレラは人には感染せず、人獣共通感染症ではない。しかし、豚への感染後の罹患率および死亡率は最大100%となりえる。

遺伝子配列解析の結果、中国における今回のアフリカ豚コレラの流行を引き起こした株は、遺伝子型 II であり、遺伝子配列の一部は 2007 年のジョージア株と 2017 年ロシア・イルクーツク州株の配列と完全に一致する。

専門家は、

「中国はもともとアフリカ豚コレラの非感染地域であり、アフリカ豚コレラの発生原因は以下のとおりであった。第一に、アフリカ豚コレラウイルス（強菌株）が海外から導入されたこと、第二に、あらゆる豚にはアフリカ豚コレラウイルス（現在市販されているアフリカ豚コレラワクチンは存在しない）に対する特異抗体がなく、アフリカ豚コレラウイルス感染に耐性がないこと、第三に、豚産業従事者は、本疾病の臨床的および病理学的な知識と経験が不足しており、生物学的安全予防および管理の意識が強くないこと、第四に、疫区や高リスク地域との豚の移動制限など、流行の防止と管理対策に穴があるかもしれない」と語った。

専門家は、現時点では、疫区の隔離、封鎖、消毒、感染豚のとう汰や焼却などの実行が効率的に行われている、また、アフリカ豚コレラが人に感染する可能性はほぼなく、これまで感染の報告はないと強調した。

感染豚は死亡率が高いため、農家へは豚の移動範囲を狭めるようを推奨している。

世界保健機関(WHO)のアフリカ豚コレラレファレンスラボラトリーの Sanchez-Viscaino 教授は、We Chat で、「アフリカ豚コレラウイルス感染豚の死亡率は高いが、同ウイルスは口蹄疫や豚コレラが農場間で広まったような拡散速度は有さない。農場が厳重な飼養衛生管理を徹底し、ウイルスの感染経路を遮断することができれば、国内の豚を感染から効果的に保護することができる。」と述べた。

豚の給餌プロセスにおいて感染源との接触を遮断することは、疾患の発症を効果的に防止することができる。東ヨーロッパ諸国の予防と管理の経験によると、アフリカ豚コレラの流行は主に、低所得世帯と低レベルの飼養衛生管理の小規模農場（家庭）で発生する。ある一定の条件を満たす農場では、自助努力と自立支援に最善を尽くすべきであり、当面は豚の導入を避けるべきである。導入する場合は、少なくとも 15 日間は観察する必要がある。

加熱されていない捨て水や食品残渣が豚に直接給餌するのを防ぐことも必要だ。多くの研究で、ウイルスに汚染された捨て水の摂取が、アフリカ豚コレラの伝染の重要な感染経路の 1 つであることが示されている。1957 年と 2007 年にポルトガルとジョージアで発生したアフリカ豚コレラの侵入経路は、国際線や船舶で発生する捨て水が直接豚に給餌されたことであった。

アフリカ豚コレラは環境での生存力に非常に強く、自然環境下や血液、感染豚の糞便などで感染力を維持することができるため、洗浄と消毒対策を厳密に実施することが非常に重要である。

しかし、アフリカ豚コレラウイルスは熱に弱く、蒸したり似たり焼いたりすること消毒することができる。いくつかの種のダニは、アフリカ豚コレラを伝播しうる生物学的ベクターである。吸血昆虫の中には、病原体のある農場から別の農場に運ぶものもあるので、農場で定期的に昆虫を殺すことが推奨される。

専門家は、特に農家に対し以下のことを頭に入れるよう警鐘を鳴らしている。

「アフリカ豚コレラについて、・非常時には外部から豚を購入しないこと、外国から肉や肉製品を

購入しないこと、会合や人の出入り、食事会などを減らすこと、海外へ渡航した人は 1-2 日隔離すること、車両の入場を制限すること、現場に営業の人間を入れないこと、疑似患畜を発見した場合迅速に報告すること。これらで、自身の農場及び近隣の地域の豚の農場の予防レベルを最高レベルに上げることができる。」

効果的なワクチンはなく、感染したブタを厳重に管理することが不可欠である。

専門家は、「アフリカ豚コレラは、感染豚、汚染された輸送車両、飼料、人員、衣服、靴、感染豚の排泄物、分泌物、豚肉およびその製品を含む様々な方法で伝染する。特に、感染豚の輸送が流行拡大の主な原因となる。」と述べる。

現在のところ、アフリカ豚コレラのワクチンは存在せず、とう汰と無害化、厳格な飼養衛生管理によってのみ感染は制御される。

中国は世界最大の豚の生産国であり消費国である。流行の拡大を防ぐため、アフリカ豚コレラの予防と管理に重点を置いて、部局間の連携機構を形成することを提案している。検疫局、交通部門局、税関、公安などの部門が協力し、アフリカ豚コレラの予防と管理を共同で行っている。マルチチャンネルの防衛線とマルチレベル障壁を確立し、すべてのブタを疫区の 3km の範囲で摘発し、ブタ農場を完全に消毒し、無害化処理を行う。疫区周辺の検疫所と消毒場所を設置し、動物輸送車両の動きを制御し、出入りする人員や車両を消毒する。疫区、脅威区域および周辺地域でスクリーニング、防疫対策の準備と知識普及を実施すると同時に、流行の拡散を最小限に抑えるためにイノシシおよびダニのモニタリングに注意を払う必要があり、各農場の厳格な飼養衛生管理システムの確立と厳密な実行が重要である。

中国南部では北部の豚が人気であり、北東部で大規模な養豚場が展開されているが、アフリカ豚コレラの流行により、地元の豚肉の供給を外部の豚に依存している省にとっては危機的状況である。現時点では、高リスク地域を低リスク地域に転換することはできない。

「中国の豚等各種の家畜を輸送する過程で検疫監視システムは機能しているのか？」

記者の質問に応じて、専門家は以下のように述べた。

「省間輸送を禁止することは困難だが、現行の地域横断豚輸送システムを改善することが急務である。輸送車両は、完全に閉鎖空間でなくてはならず、換気をしてはならず、随意的に停車することはできない。病気の豚や排泄物を捨てることはできない。消毒ポイントの設置が必要である。GPS を設置し、移動過程全体を監視、追跡できなければならない。輸送チームは、専門家で、国家食品安全監督管理システムに組み込まれていなければならない。」